

【高等部 職業 実践の概要】

- 高等部3年 職業 (単一障がい学級)
- 本時の題目：情報セキュリティや情報モラル、keynote の使い方のテストをして、大切なポイントや基本操作を覚えているか確認しよう。
- 本時の目標：
 - ・情報セキュリティや情報モラルの問題となった例を提示して、その危険性と具体的な改善策を答えることができる。(知・技)
 - ・keynote の使い方(フォントの調節、画像の挿入、アニメーション、保存、名称変更、共有 AirDorp で送る)について理解して、自分で操作することができる。(知・技)
 - ・情報セキュリティ・情報モラルについて、ワークシートを見返すことで、自分の考えを記入したり発表したりすることができる。(思・判・表)
 - ・手順表を確認し、既習した内容を思い出して、keynote で表現することができる。(思・判・表)

授業者のねらいとしては「keynote を用いて、情報モラルについて自分なりの表現で表出して、理解を深めてほしい」というものであった。そこで、情報モラルと情報機器を題材にした授業を行った。導入で、前時まで学んだ情報モラルについて振り返り、情報モラルについての確認テストを行った。その後、情報モラルの問題となる例を提示して、その危険性と具体的な改善策を考える活動を行った。最後に、keynote を用いて、本時の感想を入力し、授業を終えた。

【良かった点・工夫されていた点】

- 丁寧に授業を進めることで、全員が情報モラルのテストで正解することができていた。
- 学んだことを情報機器を用いて、自分なりの考えを表現することで、学びを深めようとしていた。

【課題】

- 導入の部分に時間がかかり、振り返りまでいくことができなかった。
- 活動が多く、生徒にとって何ができればよかったのかという部分が、曖昧になっていた。
- めあてとまとめの提示はあったが、生徒の言葉で振り返りをする時間が取れず、生徒たちが何を学んだかの確認ができていなかった。
- 教師の問いに生徒が答えるという形式の授業展開が多く、生徒同士の対話的な場面があまり見られなかった。
- 「パスワードは人に見られないようにする」といった回答をすることができていたが、なぜ、パソコンにパスワードの付箋を貼っている人がいるのかといった、「なぜ」に迫ることができなかった。
- 情報機器を用いることはよかったが、その前の活動でプリントに書いたことを打ち込んでいただけになっていた。

【助言】

- 導入時に丁寧に前時の振り返りをしていただが、丁寧にしすぎることで、展開の部分に時間を費やすことができなかったので、時間の配分について再度検討すること。
- 活動が多いことで、生徒にとって何ができればよいのか焦点化されていなかったため、この時間で生徒の学びの何を見取るのかを定めていくこと。
- 教師と対話的な学習を通して、考えを言語化することはできていたが、一問一答形式になっていた。生徒たちの実態を考えれば、「なぜそれがよくないのか」、「それならどうすればよいか」といった生徒同士の対話的な学びを通して、思考する場面を設定することで、より深い学びにつながっていく。
- 生徒たちにとって「この学びがなぜ必要なのか」を理解できることが主体的な学びにつながっていく。生徒の生活に汎化させる視点で内容を検討すること。
- 深い学びとなったのかを見取るためには、情報モラルについて、例えば、啓発ポスターをパソコンで作成するといったことも一つの方法としてある。そのような視点で生徒が深く学べたかを見取る方法を検討すること。